

国際水研 第 120 回 所内談話会

「新たに国際水研に加わった学位持ち研究者の研究紹介」

日 時： 2017 年 6 月 8 日（木） 14：30～
場 所： 国際水研会議室「富士」（清水庁舎本館 2 階）
講演者： ・かつお・まぐろ資源部 かつお G 任期付研究員： 青木良徳
・かつお・まぐろ資源部 かつお G 研究等支援職員： 田中文也

研究紹介

かつお・まぐろ資源部 かつお G 任期付研究員 青木良徳

私は、これまで小型記録計（アーカイバル・タグ）を用いた行動計測を基に、生物の分布・回遊に関する研究に取り組んできた。アーカイバル・タグでは水平・鉛直的な行動や水温といった環境情報だけでなく、生理情報として腹腔内温度（体温）も記録している。分布・回遊の機構を知るためには、海洋環境の変化だけでなく個体の側の生理的な変化についての解析も重要であると考え、移動に伴う生理的な変化に注目し研究を行ってきた。主な研究内容として、亜熱帯域に生息するキハダの体温生理に関する研究、体温データを用いたカツオの摂餌活動の検出手法の開発、カツオ当歳魚の北上回遊に伴う生息環境と摂餌行動の変化についての研究などがある。今回の発表では、私がこれまで行ってきたカツオの研究についての一例として、北上回遊したカツオの獲得エネルギー量の変化について紹介する。

研究紹介 「タイ科魚類の分類学的研究とこれからのかつおGにおける業務について」

かつお・まぐろ資源部 かつお G 研究等支援職員 田中文也

私は、これまでタイ科をメインとした沿岸性魚類の分類学的研究を行ってきた。タイ科魚類は、全世界の熱帯から温帯域にかけて広く分布し、現在 37 属 148 種が知られており、水産上重要な食用魚類や遊漁の種類を多く含む。しかし、最近の遺伝学的研究により、同属の種が異なるクレードに含まれ、それらは単系統でなく、多系統であることが大西洋や太平洋の魚類で示唆されており、種の帰属に問題のあるものが多く、また多くの種についても分類学的問題があるものが多いと指摘されてきた。そのためタイ科の世界的な全体像が不明で、モノグラムが未だに作成されていない状況にある。そこで今回は、これら上記の問題について行ってきたタイ科魚類の研究成果について発表する。また、研究の過程で渡航したオマーン、パキスタン、およびエリトリアでの魚類標本調査とその成果についても紹介する。

次に、かつおグループにおいて私が現在行っている、かつお耳石の日輪査定について、今後の目標を踏まえて紹介する。